
8. 東部沿岸 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兎）

8.1 概要

千代川左岸漂砂系は、千代川河口から白兎海岸までを範囲とし、中央に鳥取空港、その西側に突堤が整備されている。漂砂の主方向は東から西であり、西端には、海水浴場として利用される白兎海岸がある。

【土砂投入実績】

- ・サンドリサイクル : 溝川から発生する土砂を河口左岸へ投入（平成 28 年度～）。
鳥取港航路の堆積土砂を浚渫し、港湾区域の西端付近に投入（平成 28・29 年度）。平成 29 年度は台風波浪による堆積が顕著なため、大量の土砂移動を実施。



図 8.1.1 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兎）の対象範囲

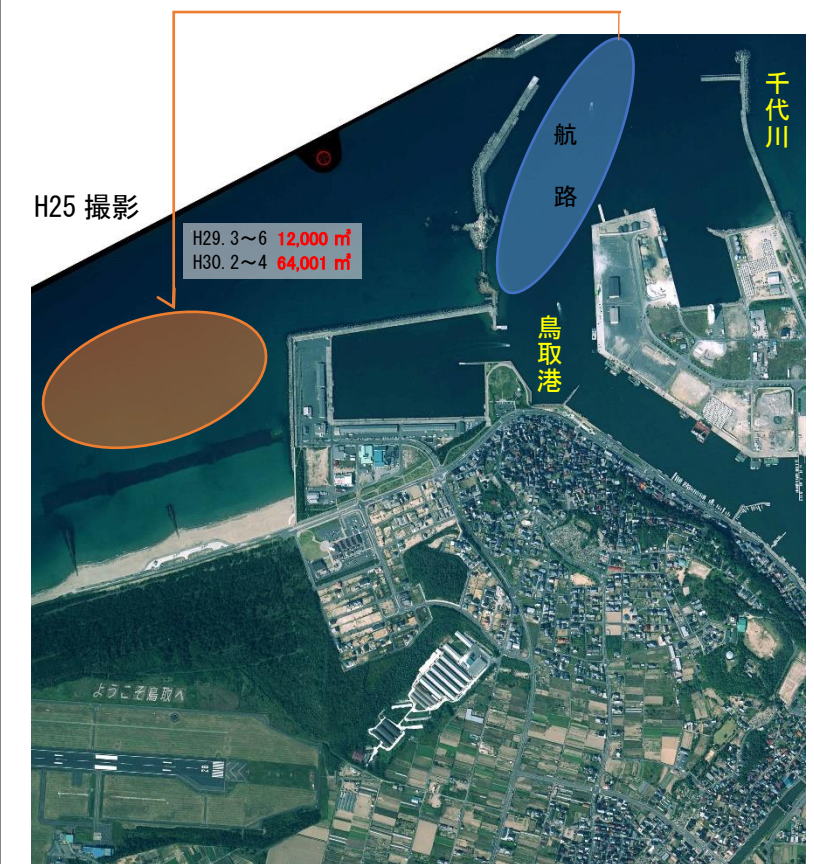


図 8.1.2 千代川左岸漂砂系（鳥取港地区）の対象範囲

8.2 評価分析

8.2.1 汀線変化分析

当漂砂系では、平成4年度より汀線測量が実施されている。同測量成果より、汀線変化を分析する。

【近年の汀線変化傾向】

<長期変化>

- ・ 突堤周辺 (No.14～19) について、平成26,28,29年度に局所的な汀線後退が見られるため、注視が必要。(コメント①)
- ・ 白兎海水浴場周辺 (No.25、No.29) は、平成27年度～平成28年度にて、局所的な侵食が発生している。特に季節的な変動が大きい箇所であるため、注視が必要。(コメント②)
- ・ 平成29年度は、養浜を行った効果もあり、全体的に安定傾向にあった。

<短期変化>

- ・ 平成26年度冬季は、No.27、No.21、No.17付近について、局所的に激しく侵食が発生している。年毎・季節毎に侵食箇所が異なるため注視が必要。(コメント③)
- ・ 平成26年度に局所的に侵食を受けた箇所 (No.27付近) は、平成27年度に堆積傾向を示し、概ね元の地形に戻っている。(コメント④)
- ・ 平成29年度に最も侵食の大きかった箇所 (No.15、No.14付近) は、年間で堆積傾向・侵食傾向が交互に現れている。(コメント⑤)





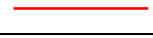
図 8.2.1 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兎）の写真撮影位置図



図 8.2.2 現地写真（平成30年9月22日撮影）



図 8.2.3 上空からの斜め写真

H4.3	
H29.2	
H30.3	

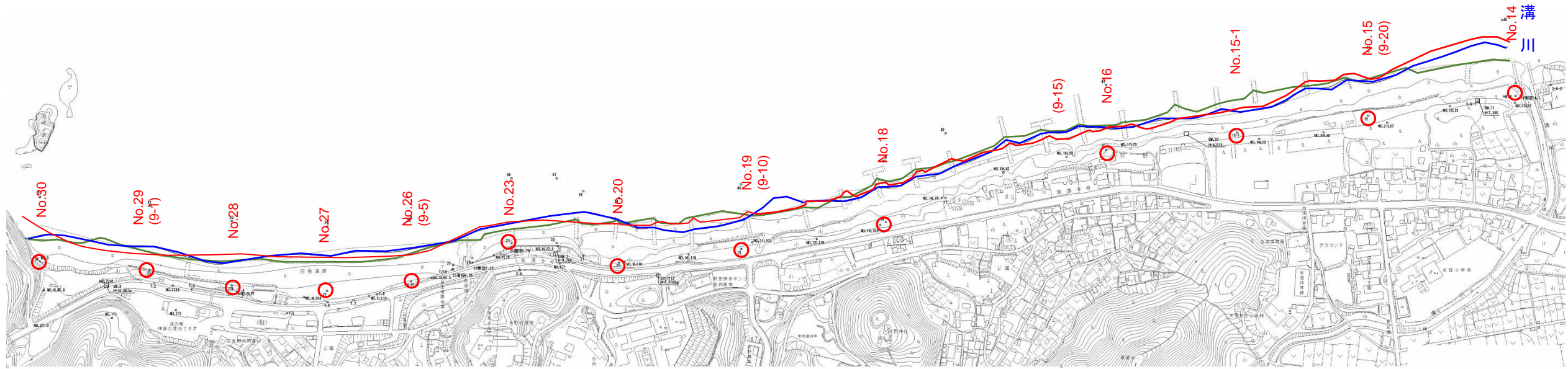


図 8.2.4 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兎）の近年の汀線変化

長期的分析（夏季）

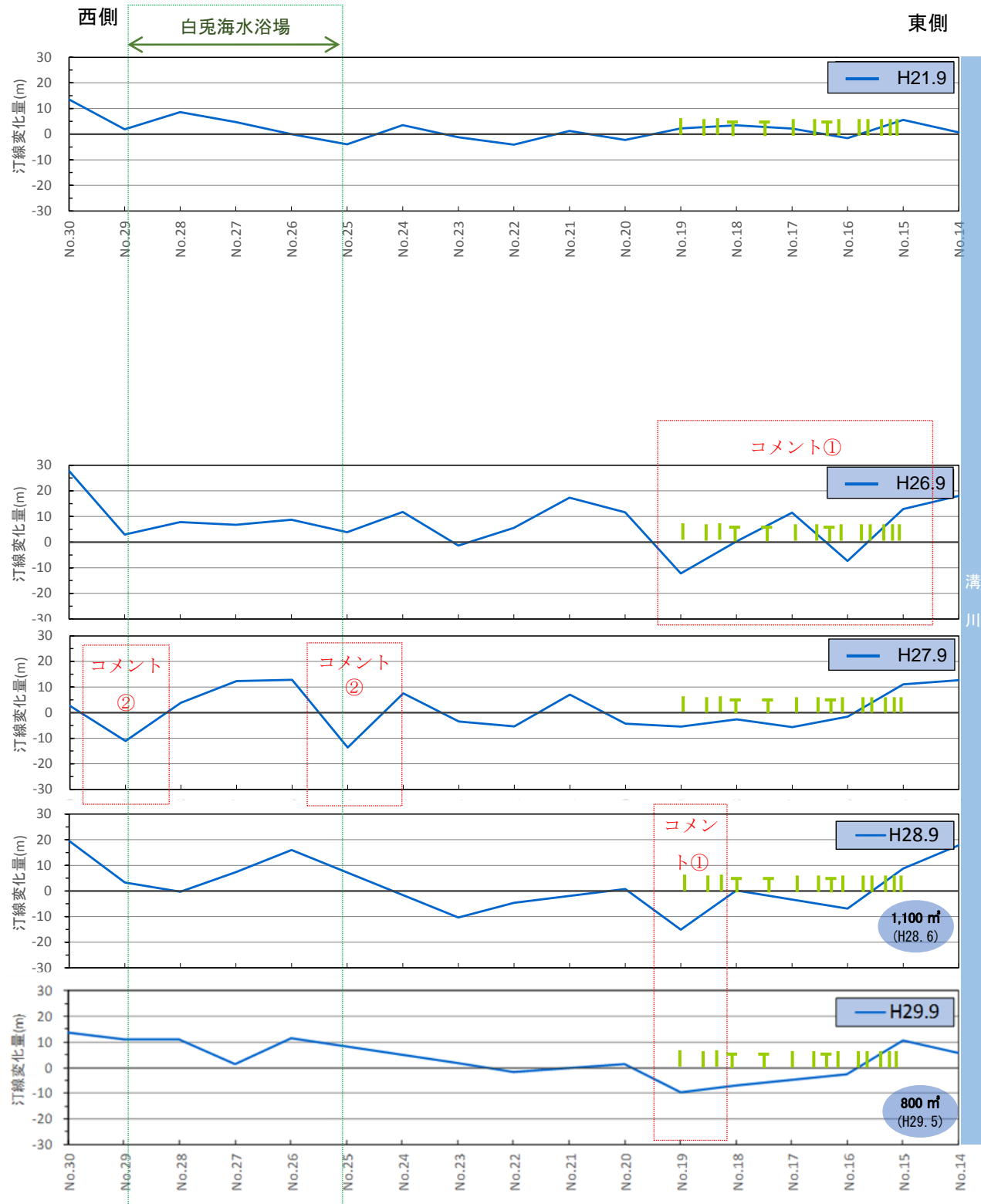


図 8.2.5 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兔）の近年の汀線変化状況図(平成4年3月測量基準)

長期的分析（冬季）

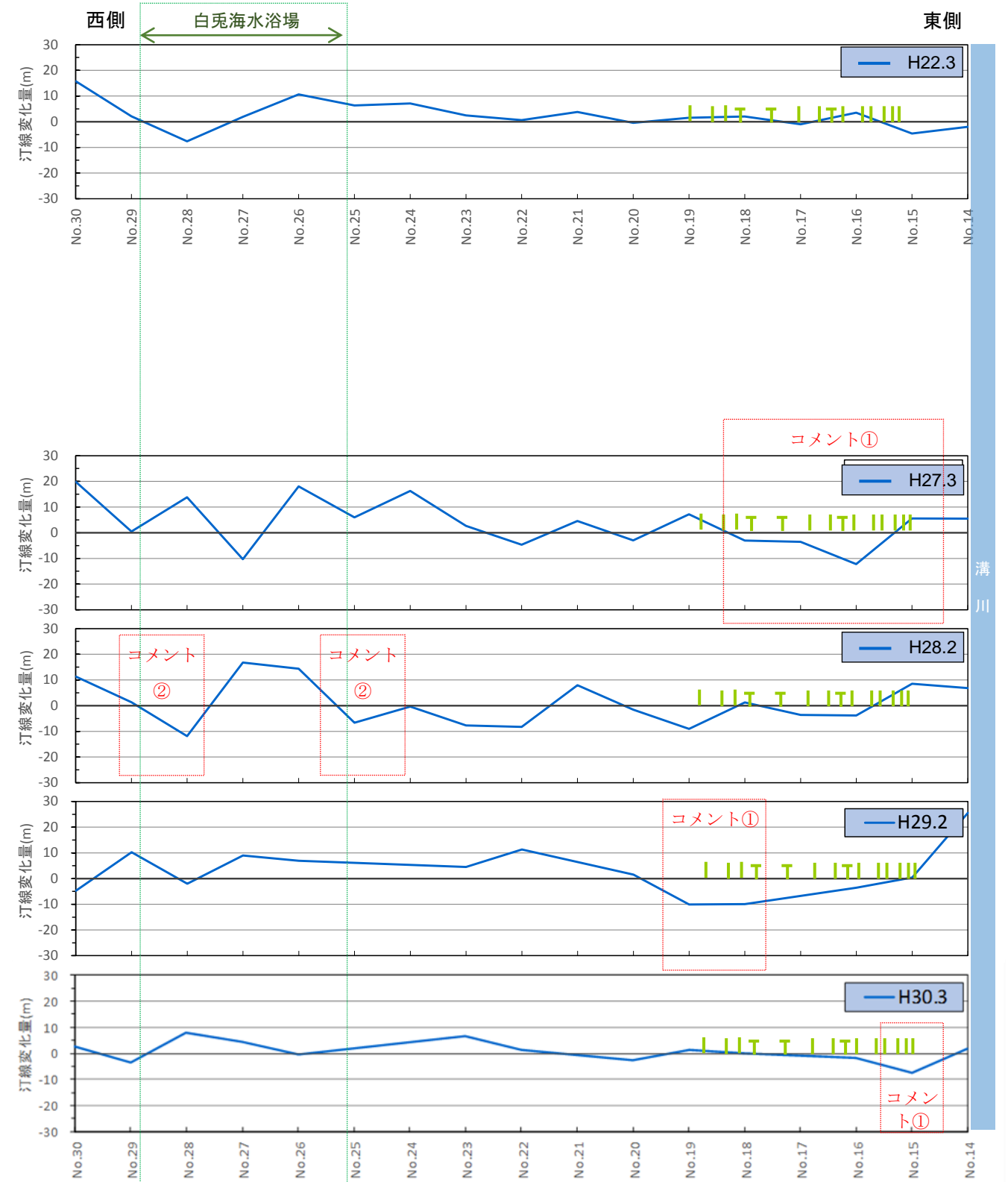


図 8.2.6 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兔）の近年の汀線変化状況図(平成4年3月測量基準)

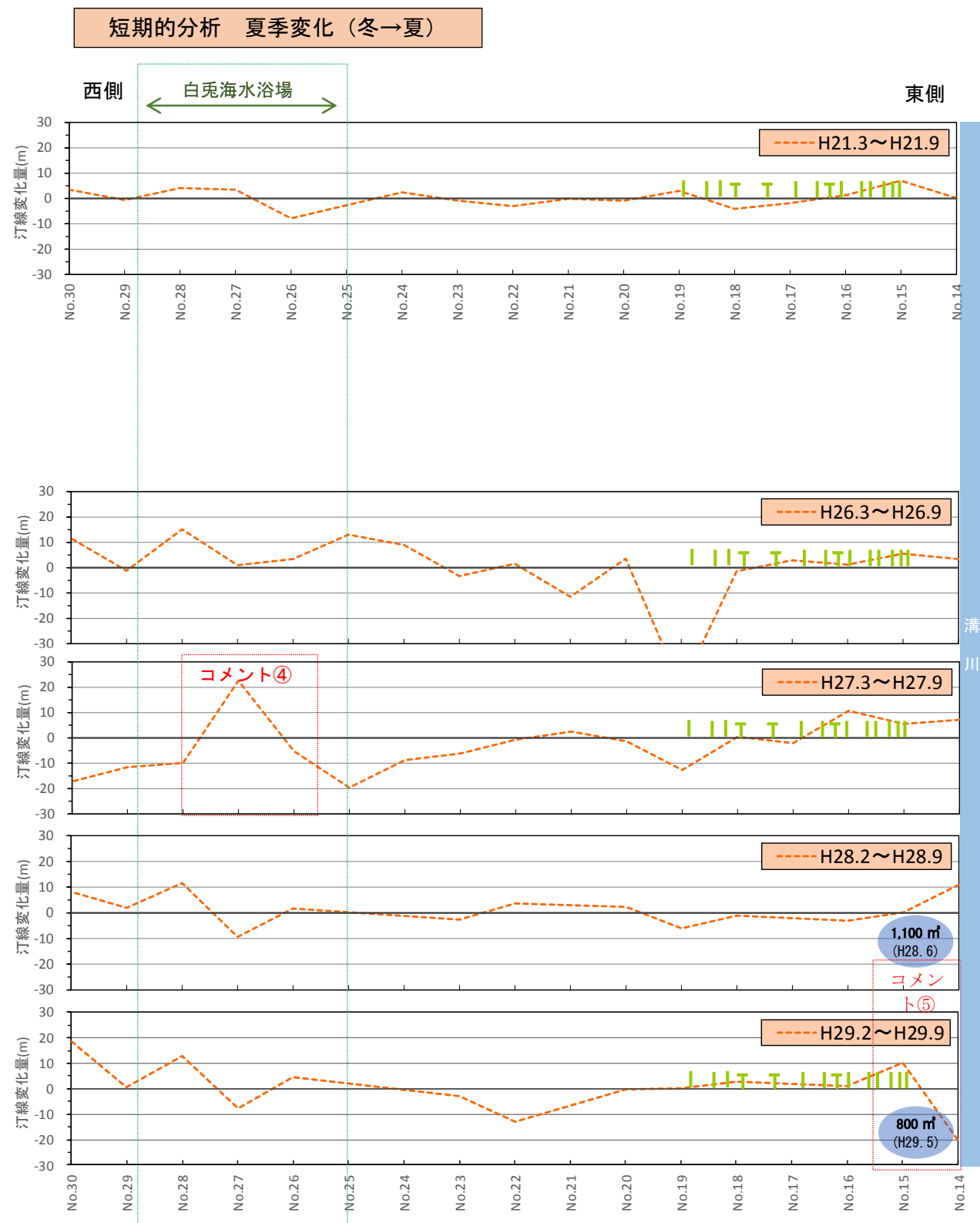


図 8.2.7 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兎）の近年の汀線変化状況図

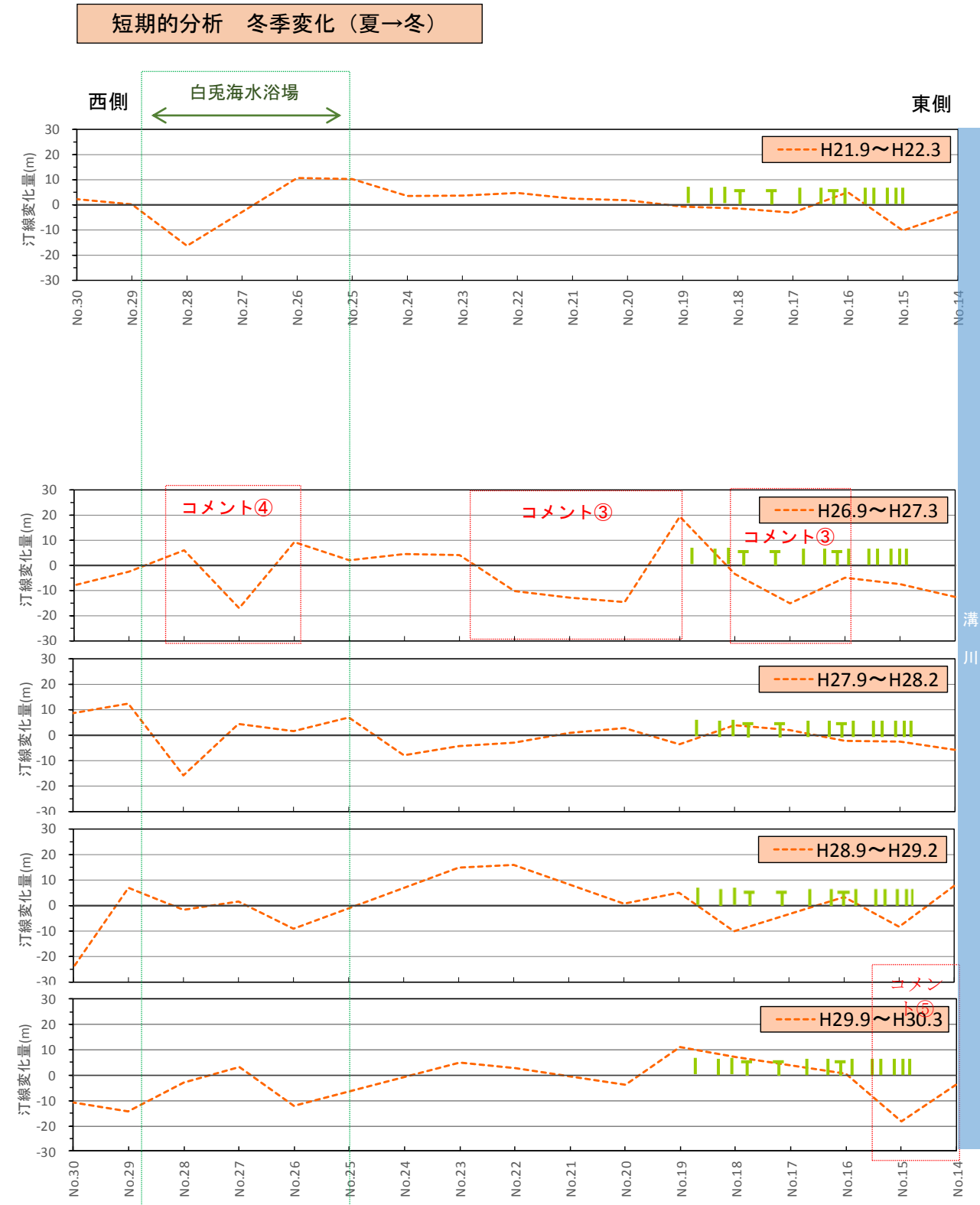


図 8.2.8 千代川左岸漂砂系（鳥取西地区白兎）の近年の汀線変化状況図

8.2.2 浜幅分析

(1) 概要

当浜幅分析は、前述の分析が『ある年度の汀線を基準とした相対的な評価』に対し、『浜幅の絶対量を示しその変動を評価』するものである。本分析では、浜幅の目安を、『防護』『利用』から設定をしており、

防護面については打上げ高計算より25m、利用面については海水浴利用の観点から40mに浜幅を設定し、評価を行っている。

(2) 分析結果

- ・ 浜幅は概ね防護基準を満たしているが、部分的に防護面からの必要浜幅程度となっている箇所がある。
- ・ 突堤が整備されている箇所（No.16 付近）において汀線が後退しており、防護基準を辛うじて満たす浜幅であるため、引き続き注視が必要。
- ・ 海水浴場として利用をされている箇所（No.25～No.30 付近）については、夏季には利用面の浜幅を確保することができたが、冬季には減少が見られるため注視が必要である。

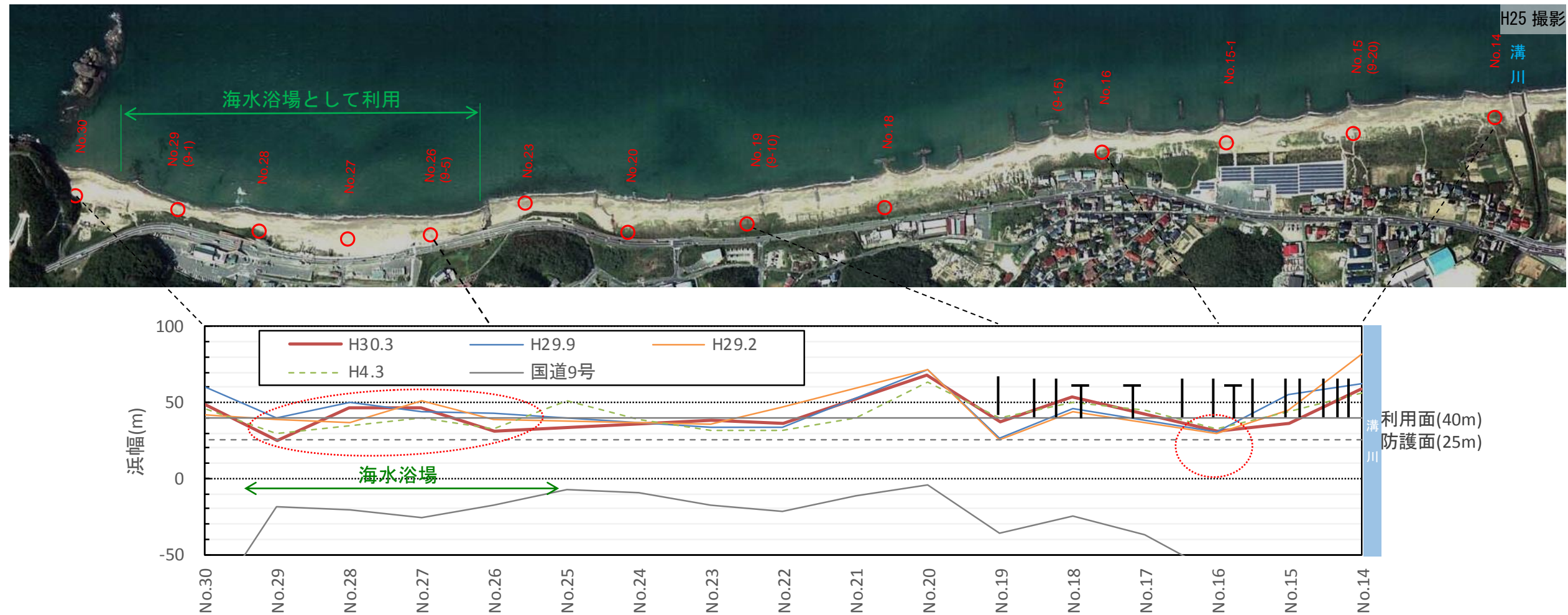


図 8.2.9 現況の浜幅

